夕刊 磐城新聞
十一月二十八日發行
定價 一部金五錢 一ケ月金六拾錢(郵稅拾五錢)
廣告料金 普通欄一行金六拾錢 雜報欄一行金九拾錢 五號十二字詰(場所指定一行壹圓五拾錢) 同
編輯印刷兼發行人 柏木哲 福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞 合資會社
登錄交信電略(イイライワキ) 平局私書函第十二號 電話五六四番
(日曜祭日翌日休刊)
振替東京一〇八、五五六五番

バス孃の名所案内

エッチ・エス生

四

こゝらあたりは古賀村と申します、御覧の通り右に左に植木畑が目立つて澤山見へます通り、この村は三百年の昔から植木村と申しまして長崎開港當時から植木盆栽の發達に努め明治初年には早くもウラヂオ、ハルビン、上海、香港、天津さては遠く南洋マニラ等まで輸出を開始し、現在では年產額十萬圓を下らず非常な好評を受けて居ります。この山の向ふ側には大村灣に沿ふて伊木刀村長與村一帶に溫州蜜柑を一千町歩以上に亘つて栽培されて居ります、品質の優良なること紀州蜜柑以上との賞讃を博して居ります。毎年京阪及び朝鮮、満洲方面まで移出され年額七十萬圓の巨額に及んで居ります。左の彼方に丁度湖水のやうな海面は大村灣の一部で眞珠貝の培養で名高い處で御座います左手にこの道と併行する鐵道は長崎本線で御座いますこれから暫くの間御説明申上げる場所も御座いませんから皆様御自由に御話合ひ下さいますやうに……

皆さま正面に見へますのは諫早驛で御座います、長崎からこゝまで七里ありまして四十分を要した譯であります、此驛は長崎本線の主要驛であるのみならず佐世保行島原行の分岐點でありまして、近頃は雲仙の表玄關として國際停車場の名が御座います

皆さまこゝらあたり黄金の波もそよ／＼と朝日を受けてさん／＼と光る新田は諫江平原で御座います。今から丁度三百五十年ほど以前豐臣秀吉が九州に攻め下り時の豪族西郷純堯に味方に馳せ加はるべく命じたるも之に應じなかつた爲に領地を沒收され龍造寺家晴か之に代はることゝなりました。家晴は西郷の家老山崎丹後守の人物を惜しみ再三召抱へやうといたしましたが、忠臣は二君に仕へずと固辭して受けませんでしたが、家晴の知遇に感泣した丹後守は諫早地方民の爲に有明海埋立を進言いたしました處、快く許されましたので世を忍ぶ一武人山崎丹後守は家人を引連れて多數の人夫を指揮しつゝ廣大な埋立工事に着手し、遂に二千五百餘町歩に亘る埋立工事が完成するに至つたのがこの田圃で御座います

皆さまこれから島原半島となるので御座います。半島は南高來郡と呼ばれその形胃袋の如く面積三十方里周圍三十二里餘まり、雲仙岳を中心として八町十九ケ村、人口十七萬五千を算します。產物としては米、麥大豆、甘藷、大根、馬鈴薯蜜柑等を多く產します。又特に御記憶願ひたいのは養雛業で御座います

晩秋點景

白銀町 平華生

鈴成りの柿淡みつゝ汽車の旅
立冬や地方列車の旅寂し
晩秋の夜汽車の隅に女泣く
紅葉焚き酒溫むる歌の會
晩秋や農家を空に野良賑し
夕冴えて尺八の音に故郷思ふ
驛頭に無言の勇士迎へけり

新年短歌俳句募集

一、題(イ、新年雜詠 ロ、牛に因めるもの)
　　數隨意、但し歌俳を別紙に認むること
一、締切 十二月十五日

今日の訓へ

哲名 山人

七

朝、太陽が東に出ると、夕には月が西に現はれる。日月は、實に、晝夜驅け廻つて、少しもヂツトして居ないが、その光明は、千古萬古、更に變りはない。人間の道も亦その通りて、常に無中に靜あり、靜中に動あり、餘裕綽々として、緊急の變に應ずる心掛けが必要である

我等は長壽や富貴を希望する、然し我等は如何に努力しても財産を作ることが出來ない、又長命を保ち得ない場合がある、これは生命や財産が我以外に存するので、之を得ると否とは運命によつて定まるものであるからである、之に反して仁義禮智の四德は外部に存するものでなく我等が心の內に存するものであるから之を求知することを得れば何時でも實行し得ることが出來るのである、故に『之を知ること深ければ、之を行ふこと必至』と、程伊川は言つて居る

凡てのものには『エナージー』といふものがある、これによつて、すべてのものを活動させるものである人間にありては慾望といふ『エナージー』がある、この適宜の應用によつて、成功の成、不成を生ずるものである

夜寢靜まつて、寂として聲なき夜半に、獨り坐して自分の心を觀ずれば、妄心がなくなり、ひとり眞心があらはれてくるを覺ゆるものである、然しながら、平時妄心の拂へども拂へども除き難きを思ふと全く恥入る次第である。この眞心と妄心との關係は恰も月と雲との如きものである。故に儒敎では明德を唱へ、佛敎では眞如を叫ぶのである

憧れの胡蝶

峰野峽

私は枯野のバラ
君は美しい胡蝶
君は樂しく
蕾から花へと
飛んでゆく
私は
ひとりぼんやり
殘されて
君をあこがれつゝ
日毎にしぼみゆく
私は枯ののバラ
君は美しき胡蝶

弔舟生翁

珠雲 小野務平

素封百萬夙成勳
鶴子龍孫放異芬
八十五翁終藥館
淚顏空送夜臺雲

11月29日
△王陽明逝く(嘉靖七)△南米大陸發見(一、五一九)△第一回帝國議會開く(明治二三)△米のクリッパー機太平洋を征服(昭和一〇)

11月30日
△海底電信創設者ウエスト・フイールド生る(一、八一九)△尾崎紅葉逝く(明治三六)△五・一五橘愛郷塾頭に無期の求刑(昭和八)

小說 高橋是淸 (179)

松浦泉三郎作
佐々木今朝吉畫

恐慌(一)

赤坂表町高橋是淸邸

日本間の分厚な座蒲團の上へきちんと端座して、日頃の癖の懷中手を、今日は型の如く膝に置いて微笑を含みながら、田中男が、

『最近健康はどうな喃?』

と、是淸を勞るやうに見た

『何分年齡でしてな』

是淸も微笑で應じたが、近頃頓に肉體の上に、老ひを感じてゐる事を思ふと、何がなしわびしいものが感じられた。事實餘り健康もすぐれない昨今だつた

『自重せにやいかん喃』

言ひながら、田中男は、視線を窓外に投げて、暫らく、への字なりに口を結んだ儘、默りこくつてゐた。窓外は春の宵だつた。

『自重しとる心算ぢやが、既に頹齡七十四、永い事もあるまいと思つとる。あんたのやうな、生きのいゝ男を見ると羨ましい』

『おらは軍人ぢやからな』

田中男は高々と笑つて

『時に』

と、一膝進めた

『實は今日は折入つてお賴みせんならん事があつて伺つたんぢやが、一つ是非うんと言つて貰ひたいがなう』

『吾輩に?』

『うん。强つてのお賴みでな高橋君、永い事もないと思つとる命なら尚更ぢや。その命、おらに呉れんか?』

『命を?』

生一本な軍人らしい態度で、無遠慮に言放つた稚氣を帶びた對手の言葉に、是淸は半ば笑ひながら小首をかしげた

『うん。是非に所望なんぢや』

『話に依つてはやらんこともな』

『呉れるか』

『話次第ぢや』

『その話は、うんと言ふて呉れたらする』

『そりやあ壓制ぢや』

是淸はあきれたやうにわらつた

『壓制でもかまわん』

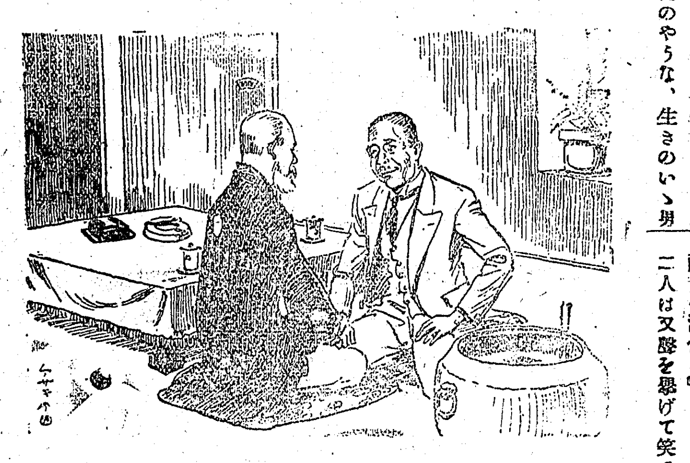
『無茶ぢや喃』

『無茶は承知で、おらの見込んだ三國一の婿殿を口說いどるわけぢや。話をした後で、御免蒙るは困る。命やらうと言つて呉れんか』

『えらく又見込まれたもんぢや。そら、何とか言つた』

『醜女ハ深情か』

二人は又聲を擧げて笑つた



『冗談は拔きにして賴む。おらが男になるかならんかの境ぢや。あんたでなくては出來ん事ぢや』

『うん』

是淸にはもう萬事か判つてゐたので一寸考へてから

『然し吾輩如きが喃』

と、改めて對手を見た

『ホ、オ』

田中男は顏中を綻ばして

『もう諦めたか。お察しの通りぢや。おらは今宮中から退下したばかりぢや。その足で一文字に此處へ來たんぢや。賴む。出來ん事はない。いや他の者では絕對に出來ん事ぢや』

『が、何分年齡ぢや』

『若い連中には出來ん』

『それに健康狀態も良くない』

『だから命を呉れんかと言つとるんぢや。おいらに呉れる命は、つまり國家に投出す命ぢや。不確實なものに任せて、この困難な金融界恐慌の波に捲込まれて了ふやうな事があつたら、財界はどうなる、日本はどうなる? あんたの出馬は日本全體の懇望するところぢやとおらは思つとる。齋藤別當の故智に倣つて死花を咲かせるのも男子の本懷ぢやらうが……』

『あんたの口說上手には叶はん』

是淸は顎髭を輕く撫でながら

『御懇望に從はふ。だが精々四五十日の間で許して欲しい』

と、ニツコリ微笑んだ

『おゝ』

田中男は、喜色を滿面に浮べて是淸の左手を堅く握り占めて振りながら

『おらも運が向いた。おらも男になれる!』

廣告

各科專門醫擔當
磐城共濟病院
院長 醫學博士 長谷部喜久
平町・電話六四一

酒とマヅイ
おでんの榮ちやん
平田町花ノ里
電話三三番

嚴寒來たる!
あなたのメリヤスは
專門のヤマカへ!
平町二丁目 電六〇五
山家メリヤス店

チフスノ豫防ニ
三共ノチフス內服ワクチンヲオスヽメ致シマス
三共チフス內服ワクチン
大人一人分金二十錢
小兒、大人量の半量
有効期間…本劑服用後約一ケ年
三共株式會社特約店
平町四丁目
關內藥局
電話四〇番

優秀なる專門技術
完備せる試驗設備
モートル
變壓器 修理工場新設
平町月見町
合資會社 佐藤鐵工所
電話三六二番

假營業所
弊店改築中表記の所にて營業致し居りますから相變ず御最貭の程を御願致します。
平町三丁目一番地警察署通り
會田時計店
電話三六三番

日ノ出ムシカマド
福島縣指定管
普通下水混凝土管
尾州陶管、火鉢類
磐城セメント販賣
日本型セメント瓦製造
森下安吉商會
營業所 平町中學校坂下 電話六九八番
販賣店 平町胡摩澤通り

諸機械製作販賣
機械切各種齒車製作
合名會社 田邊製作所
平白銀町(驛前通)
電話二九四番

一家に一瓶
新時代の
家庭常備藥
水むし に
小さな怪我 創傷 腫物 蕁麻疹 とびひ 皮膚搔痒症 しらくも いんきん たむし はたけ 乾癬
強力殺菌消毒最新藥

ホシマーク
小さな傷から丹毒・ワイルス病・破傷風の如き大きな不安が生れる
本劑の殺菌消毒力は・過酸化水素・ヨーチム丁度等のそれに倍り、深達性強力にして且つ無刺戟の理想的殺菌劑を致します
本劑のアメリカにて發見せらるゝや近代科學の驚異として迎へられ、忽にして全米を風靡し、わが國に於ても、醫家にありては既に各科に應用せられつゝあり新時代の家庭常備藥として推薦致します
藥價 〇・三〇
ホシ胃腸藥錠 〇・二〇 〇・五〇 一・〇〇 二・〇〇
ホシチヤコール錠 〇・五〇 一・〇〇
福島縣平町三丁目三〇
星チエンストア平支部
一般藥品 賣藥化粧品 醫療器械
ホシ藥舖
電話四二九番

跳躍する健兒二千餘 壯烈な軍國繪卷展開
機關銃隊も參加して 青年學校聯合演習
初冬の山野を彩る

郡下青年學校聯合演習は今二十八日午後一時より平―小川間に於て開始された、郡下二千餘名の生徒は既報の南北兩軍に分ち小銃九百餘挺、輕機關銃二十餘挺を使用し篠山聯合會長統監、磐中配屬大井川中佐、平商同上佐藤工兵中尉中央審判の下に初冬の山野に壯烈なる演習を展開したが今第一日は左の想定に基き午後五時から小川―平窪間に攻防戰を演じた、同夜は小川校赤井第二校、小川分教場(北軍)平窪校、赤井第一校(南軍)平窪購買組合事務所(統監部)に分宿、各將校の時局講話あり明二十九日第二日は拂曉行動を開始して平窪小學校附近に遭遇戰を展開、同校庭に閲兵分列式を行ひ午前十一時演習を終了する豫定である

△南軍 一、郡山方面より前進せる敵を邀撃する爲水戸方面より鐵道輸送中の旅團の午後の作戰を容易ならしむべき任務を有する南軍先遣隊(歩兵一大隊、山砲一中隊(假想))は十一月二十八日平驛に下車し同日正午其の歩兵先頭を以て平驛北側鐵道踏切に達す 二、此の時迄に先遣隊長は次の情況を知る、1旅團主力は本日午後二時半平驛に到着するの状況にあり、2約三、四百の敵は本日午前十一時頃上小川に涜入し同地附近を占領せるものの如し、又二百内外の敵は同時頃川前附近より三阪、永戸村方向に南進せるも其の後行動不明なり 3敵の主力らしき一縱隊は昨夜遲く小野新町に進入せる事確實なるも其の後の狀況不明なり

△北軍(白帶) 一、水戸方向より鐵路前進中の敵に對し旅團主力の上小川附近隘路進出を掩護すべき任務を有する北軍先遣大隊の十一月二十八日午後一時に於ける態勢は上小川部落、同北方に各一中隊、同小學校附近に一小隊、上平―高萩の線に一小隊、平久田―上ノ原の線に一小隊を配置せり 二、此の時迄に大隊長は次の情況を知る 1砲を有する千内外の敵は本二十八日午前十時三十分頃平驛に下車し同十一時三十分頃出發し得るの態勢にあり、又その主力は近く鐵道により輸送せらるる狀況にあり 2旅團主力より出されたる右側支隊(歩一中、MG一小)に川前―輕井澤―中根―上原迄を前進し午後三時頃上野原迄進出するの狀況にあり旅團主力は午後五時頃には上小川附近に進出する狀態にあり

磐女同窓會新舊合同
擴充强化を圖って ◇……今後の活躍に資す

今春第二十五回卒業生を出した磐城高等女學校の同窓會『櫻丘會』では同校の前身たる舊磐城女學校同窓會を合同して團体强化を圖り今後諸般の事業に活躍することになつた 磐城女學校は明治三十七年當時平町長たりし川島至善氏等により戰時記念として平町舊城跡に創立され、五回百六十餘名の卒業生を出し同四十五年開校の現縣立校に引繼がれたもので當時の卒業生中には現在婦人界に於ける知名の有力者も少くない從つて來春卒業生を以て第三十回生とすると

寒曉三時から 尊い收穫金廿錢
感心な納豆賣り少年群

滿地の霜柱針の如き未だ眞つ暗な冬の朝まだき、寒天にすき透る納豆賣りの聲こそ、闇深く廿夢を貪る寒がりを奮起させるに充分なるものがある。彼等少年は早曉三時夙くも床を離れ、身を切る朝風を衝いて平窪の―内鄕の―製造元へ驅けつけ、大てい各々四十本見當を仕入れると其儘町へ急いで町端れから納豆!納豆!の聲高らかに黎明の街をふれ歩く、普通の兒童が登校する頃迄に悉皆賣り上げて家に歸り、朝餐もそこ〱に學校へ行くのであるが四十本賣りつくして純益二十錢。それは素より零砕な金には相違無いが、彼等が眞の努力によつて生み出したその收得は旋て一家を支ふる尊い米鹽の資ともなる事であらう、漫ろに合掌し度い樣な昨今の早天に於ける納豆賣り情景ではある

脫漏者三名
選擧人名簿へ登錄

平町の衆議院並に町會選擧人名簿供覽期間中異議を申立てた四名中左記三名は脫漏と判明登錄され、一丁目森下庄吉氏は却下された

南町織田活郎　杉平開澤留之助　五丁目會田淸明

健康診斷を行ひ 疑似者は直に隔離
チフス豫防策決る

チフス續發の豫防對策のため出張した土屋衞生課長の一行は昨二十七日湯本町を最後に視察を終へて歸縣したが、今後は豫防の萬全を期するため皆川平細菌檢査所長並に縣醫師によりこれが發生地たる内鄕、好間、湯本、箕輪、平の各町村民全部に對して健康診斷を行ひ疑似者と思しきものは直に隔離する方針をとる事となり縣醫師は今二十八日來平した

平で一名死亡 チフスで隔離された平町田町伊藤幸平(三五)君は二十七日遂に死亡した

渡り鳥的失業群
今年はグツと減少

―鰊殺しとシカベの鳥は。と歌にさへ其のジプシー振りを寂しまれて居る北海道、樺太方面の季節勞働者は冬季積雪中の森林を職場とする伐木人夫に殘る以外略ね漁季終了と共に同地方を追はれ、靑森方面から漸次南下しては、沿道各地方の紹介所を惱ますので例年冬期中は之の方面の受難季節とされ、殊に平紹介所の如き名だたる炭都として實際以上に景氣を想像されてゐる結果、之の前後に殺到する多數求職者の斡旋に一方ならず手古摺つて來たが、今年は坑夫等の賣れくちが相當あると同樣北海道方面の土木事業等でこの渡り鳥的な失業群に煩はされる事少く近年稀な狀態を呈してゐる

藝妓を慕ひ
青年の家出

平町二丁目鶴屋旅館事荻野直次氏長男勝一(三)は最近喜多方に鞍替えした元平町新田町某藝妓家抱藝妓安達郡本宮町生れ根本フミ(二八)を慕つて二十六日夜父親の金百五十圓を拐帶家出郡山某旅館に女を誘ひ寄せて泊り込んでゐる處を二十七日郡山署の手に發見された

海岸に白骨死体
長勢丸遭難漁夫?

昨二十七日午後一時半頃豐間村豐間農大平德守(三〇)君が同海岸で白骨死体を發見、屆け出により平署で調べた結果今年四月二十五日同海岸沖合で遭難した長勢丸乘組員江名町北町由松二男佐藤房吉(二八)らしい

厨川橋落札

勿來町地内蛭田川にかゝる厨川橋の架替入札は昨二十七日平土木監督所で行つた結果二千四百二十圓で川部村中山吉之助に落札、同橋は鐵筋コンクリート

服毒男絕命
緣切られたを悲觀

昨二十七日服毒平署に駈込み磐城共濟病院に收容された茨城縣助川町皆川無職江尻芳太郎(五二)は今二十八日午前十時頃遂に絶命したが去る七月妻が情夫と出奔したことから神經衰弱となり十月二十九日泉村宣手鑛泉に宿泊、支拂ひに窮し去る二十三日逃走、死場所を求めて四倉を徘徊したが果さず二十七日午後三時頃平町松ケ岡公園で猫イラズを嚥下したものであると

獵天狗の悲劇
免許申請の途中 愛犬殺さる

平窪村上平窪農林淸十(五四)さんは昨廿七日午後三時頃愛犬を伴ひ平署に狩獵免許を受けに來る途中フトした事から愛犬を見失ひ搜し廻つた結果、平町新川町關口留吉所有の野犬撲殺鑑札を持つた男に哀れ撲殺された事が判つたので『鑑札あるにも拘らず……』と平署に屆け出た、同署で調べたが關口は數日來病氣で寢て居るので同人ではなく引續き取調中、尙愛犬は數百圓する洋犬であると

天氣豫報
(小名濱測候所觀測)

今晩は北西風晴時々雨
明日は北西の風晴

野天風呂で乞食老婆頓死
心臟痲痺を起す

湯本町向田地内野天風呂に二十七日午後五時頃老婆の變死体が發見された、平署で檢視の結果所持してゐた戶籍謄本で新潟縣南蒲原郡下條村天神林生れ星野鐵吉養母ヤヱ(七二)と判明、乞食をしながら各地を放浪、寒さのためいゝ氣持になつて湯にひたつて居るうち心臟痲痺を起したもの

郵便局を皮切りに おゝ、ボーナス袋
吉?凶?早くも打診

待ちこがれて居るボーナスは先づ來月十二日の平局を皮切りに鐵道が十五日、其他の官廳、會社もこれと相前後して一齊にバラ撒かれるのでそろ/\『ボーナス打診』がスーブ會議の話題に上り料理屋も商店街も『出るものが出なくちやね……』と早くも待機の姿勢嬉しいその月もあと二日だ

町村財政の窮迫
―臨時補助金の大半― 町村稅輕減に充當

郡下の臨時町村財政補給金七萬六百七十九圓は既報の如く指定費途以外に充當し得ざる條件の下に交附されたが、その費途は左の如く決定を見た、これによると町村稅輕減に費消されたものが殆んど補給金の大半を占め次に小學校の國庫補助にあてられてゐるのを見ても町村財政の深刻な疲弊が窺はれる

△町村稅の輕減に充當五五、四五七圓 △尋常小學校費臨時國庫補助六、四一三圓 △傳染病豫防費八、四二六圓 △災害復舊費三八三圓

本郡から新將官
滿洲事變の殊勳者 若松騎兵大佐に内命

滿洲事變の赫々たる武勳によつて知られてゐる本郡赤井村出身若松晴司騎兵大佐は今回の陸軍定期異動により陸軍少將に陞任の内命を受けた光輝ある武官中に其名を聯ね郡黨から正式發表の日を期待されてゐる 仙滯關係で郡下に籍を置いたと云ふ樣な緣故者にはあるが生え拔きの石城つ子として將官になつた人は神谷村片寄出身の西郡菊之助(砲兵科)氏と併せ二人目である

漁業奬勵金
四倉に交付さる

四倉漁業組合ではかねて農林省に對し漁獲物並に漁業用品配給改善奬勵金を申請中であつたが二十七日本省より縣水産課に三千七百圓の交付指令があつた

森島仙臺遞信局長
昨日平局初巡視

仙臺遞信局長森島美之助氏は昨二十六日平局を初巡視の上中通り方面に向つた

平鐵演奏會

平鐵道竹由會主催第四回三曲演奏會は二十八日午後五時から鐵道倶樂部で催されたがプロ左の如し

松上の鶴　六段　八千代獅子、磯千鳥　夕顔　四季の眺　竹生島　かざしの雪　近江八景　亂　末の契　蝶の夢　酒　ケシの花

豆ニュース

平驛で事故防止研究會。。。。　平驛では明二十九日午前八時から驛樓上で運轉及荷物の事故防止研究會を開く

平驛時局講演會。。。。　平驛では海軍々事普及部梅崎中佐を招き來月二日午後一時から倶樂部で時局講演會を開く

入除隊兵

平町最近の入、除隊兵中決定の分左の如し

(入營)△二十八日午前九時平驛發歩兵第七十六聯隊新川町林三郎 △二十九日同才槌小路濱澤乘太郎 △三十日同騎兵第二十七聯隊紺屋町井口薰 △三十日同揮春駐屯歩兵隊研町居島淨 △三十日近衞歩兵第二聯隊鍛冶町吉田直吉 △同新川町鈴木泰久

(除隊)十二月一日午後零時四十五分平着高射山砲獨立山砲兵七軒町田卷正水 △同日午後三時十四分平着歩兵第四聯隊長橋町森源次郎

入營兵に望む!!
平町で注意事項

きのふ、今年度入營兵の前途を祝福した平町では更にこれら入營兵に對して左記注意事項を徹底せしめると 一、軍人勅諭を出來るだけ暗誦 一、青年學校に於ける教練、教課目等、一、土產物並に物質的歡送迎廢止 イ盛宴を中止し神社佛閣前で執行 ロ餞別廢止 ハ幟を廢止し分會旗等を以て代ふる

本名。。消防幹部。來平。。　大沼郡本名村消防組幹部は來月一日平消防組視察に來平

農村更生講演會

濱三郡農會主催の農村更生講演會は相双二郡を終へて來月十四日好間翌十五日植田小學校で開くが講師はデンマーク農業の研究者增田喜一氏

中舘根技師來郡。。。。　チフス豫防の萬全を期すべく縣衞生課中舘根技師は明二十九日來郡する

落磐。。　內鄕村白水字川平入山炭鑛第三坑後山庄司三男(一七)は二十六日午後九時半入坑作業中落磐重傷

四倉驛で貨車脫線

二十六日午後十時十三分四倉驛にて第二九四號貨物列車入れ替へ作業中本線と待避轉轍器を割り道

氣紛れ陽氣に咲き出た櫻
高月台上の奇觀

霜月も迫り早くも歲末慌騷曲が奏で出やうとする昨今、やに生ぬるい春先の樣な氣紛れ陽氣から平町高月磐城中學校門傍南崖に樹つ染井吉野の若木が一つ二つ可憐すぎるばかりの花を咲かせて昇降の生徒に奇異の眼を瞠らせてゐる、八幡社の境內のそれ―既報―は櫻紅葉の一葉々々落ちる頃日葉櫻の眞つ盛りである

二十九日 (小名濱測候所發表)
日出 六、二六　月出後 四、五四
日沒 四、二四　月沒前 六、四八
滿潮 前四、四〇 後二、五〇　干潮 前九、四五 後一〇、三〇

三十日
日出 六、二七　月出後 五、五九
日沒 四、二四　月沒前 七、五一
滿潮 前五、三五 後三、三〇　干潮 前一〇、三〇 後一一、一五

新十一月廿九日　日曜　乙卯　先勝　定　昴宿　舊十月十六日

諸判定應需 東京市本鄕區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠舘

▲一白 次第に順調に進む日なれど金談緣談等凶▲二黑 何事も面白く順よく運び行く日常業尤も吉▲三碧 内を闕ふれば外は效果揚るべし失物は注意▲四綠 過分の望みを起さず常業を勵めば利益あり▲五黃 小資を以て互利を得る日移轉勵土等可なり▲六白 橫道に走りて失敗し易し萬事手控安全の日▲七赤 遲延可ならず進むも退くも不自由を感ずる▲八白 衆達する日氣心のゆるまぬ樣一致して勵めよ▲九紫 事業の根ていに動搖の來る日愼重熟慮すべし

新十一月三十日　月曜　丙辰　友引　執　畢宿　舊十月十七日

▲一白 口約は調へども未だ實行には至らざる如し▲二黑 何となく疲れを感ずるが如く急がぬが吉し▲三碧 期待程には進まざるも追々希望の道をたどる▲四綠 反響更に無く計畫徒勞に歸せんとする凶日▲五黃 威令行はれ計畫希望益々意の如く進展の日▲六白 萬般の手筈調ひて着手に適當なる日開店吉▲七赤 商略圖に當りて利益を收め得べき盛運の日▲八白 急進は不忠の本穩かに謀るが安全移轉は凶▲九紫 一家光明に輝き繁榮を來す百事進んで大吉

恐るべき流行病の豫防は簡單にして安全確實な
(三共製)
チフス内服ワクチン
大人●一人分=20セン
(小兒なら二人)
西村屋藥局
電3●平2

Refinetex
リファインテックス
……極寒向特選生地……
OVERCOAT オーバコート
CASHMERE カシミア (カシミヤ駱駝)
VELOUR ヴェルーア (柔きメルトン)
KERSEY カーシ (厚無地絨)
SACKCOAT サックコート
WORSTED ウーステッド (梳毛絨)
VICUNA ヴイキウナ (メルトン地)
TWEED ツヰード (スコッチ)
紳士御誂服
(御報參上)
大崎屋洋服店
平町銀座通り 電話96

產科 午前宅診
婦人科 午後往診
花柳病科 入院應需
井坂醫院
平町田町(元合津醫院跡)
電話五五九番